

日本文化の苦手なところ

動画リンク : <https://youtu.be/7O9F2fkrb3s>

日本文化の苦手なところ

今回は「日本文化の苦手なところ」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。
後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字にふりがなはありません。
学習にお役立てください。

日本の文化には、他の国と少し違った特徴がたくさんあります。日本が大好きな人でも、慣れるのに時間がかかることや、少し苦手を感じる部分もあるかもしれません。この動画では、日本人の私でさえ「ちょっと苦手だな」「ちょっと大変だな」と思う、日本の文化や習慣について紹介します。日本に住んでいる外国人や、日本の文化に興味がある方にとって、新しい発見があるかもしれません。

■上下関係にこだわる

上下関係にこだわるという点は、日本の文化の中でよく見られます。特に学校や職場で、年上や先輩に対しての態度がとても大事にされます。年齢や経験の差を尊重することは良い面もありますが、ときにはそれがストレスになることもあります。たとえば、仕事で年上の人と一緒に働くときに、自分の意見を言いにくくなることがあります。相手が自分よりも経験が多いからといって、自分の考えが否定されるわけではないのですが、どうしても遠慮してしまうのです。また、先輩や上司に対して「敬語」を使わなければならない場面も多く、言葉遣いを間違えると失礼にあたるため、気を使うこともあります。これらの上下関係のルールは、特に日本に住み始めたばかりの外国人にとって難しく感じることもあるかもしれません。

■意見を言うのが難しい場面が多い

意見を言うのが難しい場面が多いという点は、日本の文化の特徴の一つです。特に、みんなが同じ考えを持っているようなときに、自分だけ違う意見を持っていると、なかなか言い出しにくいことがあります。たとえば、仕事の会議や学校での話し合いで、他の人と違う意見を持っていても、周りに合わせて黙ってしまうことがよくあります。自分の意見を言うことは悪くありませんが、日本ではみんなが仲良くすることが大切にされているので、わざと空気を壊すようなことはしたくないと考える人が多いです。また、相手の気持ちを気にしすぎて、自分の意見を言わないようにしてしまうこともあります。このような文化は、外国から来た人にとって少し不思議に感じるかもしれませんが、日本では昔から大事にされている習慣です。

■長時間の会議や打ち合わせ

日本では、会議や話し合いが長くなることがよくあります。特に職場では、一つのテーマについて時間をかけて丁寧に話し合うことが多いです。これは、みんなの意見をよく聞いて、全員が納得できるようにするためです。しかし、ときには話が進まないこともあります。長時間かけて話しても、結論が出ないまま終わることもあり、そうするとまた次の会議を開くことになります。このような長い会議は、外国から来た人にとって少し疲れることかもしれません。特に、もっと早く決めたい

と思っている人には、時間をもったいないと感じることもあります。でも、日本ではこのようにして、みんなですっかり話し合ってから決めることが大事にされているのです。

■決まったルールが多すぎる

日本では、決まったルールが多すぎると感じることもあるかもしれません。たとえば、職場や学校、地域のコミュニティなど、どこでも細かいルールやマナーが決められています。もちろん、ルールがあることで、みんながスムーズに生活できるようになっている面もありますが、ときにはそのルールに縛られて自由に動けないと感じることもあります。たとえば、職場では、服装や言葉遣い、時間の守り方など、さまざまなルールが存在します。外国から来た人にとっては、こうしたルールが多すぎて、何に気をつければいいのか迷うことがあるかもしれません。特に、日本では「空気を読む」といった、言葉にしないルールも大切にされることがあるので、慣れるまで少し時間がかかるかもしれません。

■感情を表に出さない

日本では、感情をあまり表に出さないことが良いとされることがあります。たとえば、何か悲しいことがあっても、それをすぐに顔に出さず、冷静に対応することが求められる場面が多いです。もちろん、嬉しいことがあったときも、あまり大げさに喜ばないようにすることがあります。これは、周りの人との調和を大切にするためです。しかし、外国から来た人にとっては、自分の感情を素直に表現できないことが、ときどきストレスになるかもしれません。たとえば、友達や同僚が何か嬉しいことをしてくれても、あまり感情を出さないと、相手が本当に感謝しているのかどうか分かりにくいことがあります。日本では、このように感情をコントロールして、周りとの関係をうまく保つことが大事にされていますが、最初は少し難しく感じるかもしれません。

■周りの目が気になりすぎる

日本では、他の人からどう見られているかを気にすることがよくあります。たとえば、学校や職場で自分だけ違うことをしていると、「他の人にどう思われるだろう？」と心配になることがあります。みんなと同じように行動することで、安心する人が多いのです。これは、みんなと同じように過ごすことが大切にされているからです。しかし、外国から来た人にとっては、周りを気にしすぎるのが少し疲れることもあるかもしれません。たとえば、服装や話し方についても、「これでいいのかな？」と考えすぎてしまうことがあります。本当は自分のスタイルを出したいけれど、他の人と違うと気にされるのが怖くて、やりたいことをやらないこともあります。周りを気にするこの文化に慣れるのには、時間がかかるかもしれません。

■本音と建前の使い分けが難しい

日本では、よく「本音」と「建前」という2つの考え方が使われます。「本音」とは、本当に思っていることや感じていることです。一方、「建前」は、相手に良い印象を与えるために言うことや、表向きの言葉です。たとえば、誰かに何かを頼まれて「大丈夫ですよ」と答えることがあっても、心の中では「本当は忙しいな」と思っていることがあります。これは、相手を傷つけないようにするための日本の習慣です。でも、外国から来た人にとっては、この「本音」と「建前」の使い分けが少し難しいと感じることがあるかもしれません。いつが「本音」で、いつが「建前」なのかを理解するには、時間がかかることもあります。日本でこのような場面に出会ったときは、少しずつ慣れていくことが大切です。

■形式的な挨拶が多い

日本では、挨拶がとても大切です。特に職場や学校では、毎日のように決まった挨拶をします。「おはようございます」「お疲れ様です」「よろしくお願いします」など、たくさんの挨拶が状況に応じて使われます。しかし、これらの挨拶はあまり深い意味を持っていないことが多いです。外国から来た人にとっては、このように形式的な挨拶が多いことが少し不思議に感じるかもしれません。た

例えば、仕事の終わりに「お疲れ様でした」と言っても、本当に疲れているかどうかは関係ありません。この挨拶は、ただ礼儀として使われるのです。あまり深く考えずに、慣れていくと良いでしょう。日本では、こうした挨拶をすることで、周りの人と良い関係を保つことが大事だと考えられています。

■Yes/Noがはっきり言えない

日本では、YesかNoをはっきり言わないことがよくあります。特に、誰かの頼みを断るときに、直接「No」と言うのは失礼だと考える人が多いです。そのため、「考えておきます」や「少し難しいかもしれませんが」など、やんわりと断る表現が使われることがよくあります。これに慣れていない外国から来た人は、相手が本当はどう思っているのか分かりにくいと感じるかもしれません。日本では、相手を傷つけないように配慮することが大切にされているので、はっきり断らない方が良いとされることが多いのです。最初は戸惑うかもしれませんが、少しずつこうした表現に慣れていくと、日本の文化が理解しやすくなるはずです。

■「おもてなし」が負担になることがある

日本では、「おもてなし」という言葉がよく使われます。おもてなしとは、相手に対して心をこめてサービスをすることです。特にお客さんや、初めて会う人にはとても大切にされる考え方です。たとえば、家にお客さんが来たときに、できるだけ丁寧におもてなしをしようします。これは素晴らしい文化ですが、ときにはおもてなしが負担に感じることもあります。家の中を完璧にきれいにしたり、料理をたくさん準備したりと、準備に時間や労力がかかるからです。また、おもてなしを受ける側も、相手に迷惑をかけないように気を使うことが多いです。外国から来た人にとっては、このような丁寧なおもてなしありがたい反面、少し気を使いすぎる場面もあるかもしれません。

■仕事とプライベートの区別が曖昧

日本では、仕事とプライベートの時間の区別があまりはっきりしていないことがあります。特に会社員は、仕事が終わった後も同僚や上司と一緒に飲みに行ったり、休日でも仕事に関する連絡が来たりすることがあります。仕事の後に飲みに行くことは、同僚との仲を深めるために大切だと考える人が多いですが、ときにはそれが負担になることもあります。また、休みの日でも仕事のメールにすぐ返信しなければならないことがあり、プライベートな時間を取りづらいこともあります。外国から来た人にとっては、仕事と休みをしっかりと分けたいと考える人が多いため、このような文化に慣れるのは少し難しいかもしれません。

■集団行動を重んじすぎる

日本では、みんなで一緒に行動することがとても大切にされています。学校や職場では、グループでの活動や決まりごとが多く、個人よりも集団を優先することが求められることがあります。たとえば、学校の遠足や会社のイベントなどでは、みんなが同じ行動をすることが重要視されます。これに対して、個人的な意見や行動が制限されることもあるので、外国から来た人にとっては少し窮屈に感じることもあるかもしれません。また、集団で行動するときには、他の人に合わせる大切だと考えられているため、自分の意見を言うタイミングが難しいと感じることもあります。このように、日本では集団行動が大切にされているため、個人の自由よりもみんなで一緒に動くことが優先される場面が多いのです。

■謙遜しすぎる

日本では、他の人に褒められたときに、素直に「ありがとうございます」と言うのではなく、謙遜して「いえいえ、そんなことはないです」と答えることがよくあります。謙遜とは、自分を低く見せることで、相手に対して敬意を示すことです。たとえば、「あなたの日本語は上手ですね」と言われても、「まだまだです」と答えるのが普通です。外国から来た人にとっては、こうした謙遜の文化が少

し不思議に感じることもあるかもしれません。特に、自分が本当に頑張って成果を出したときにも、謙遜しなければならないのは難しいと感じるかもしれません。でも、日本では、謙遜することで、相手に対しての配慮や礼儀を示すことが大事にされているのです。

■忙しいことが「良いこと」とされる

日本では、忙しいことが「良いこと」とされることがあります。特に職場では、常に忙しく働いている人が「頑張っている人」として評価されることが多いです。たとえば、たくさんの仕事を抱えていることが誇りに思われることもあります。逆に、あまり仕事がないと「頑張っていない」と見られることがあるため、忙しさをアピールする人もいます。外国から来た人にとっては、仕事が多すぎると疲れてしまうので、こうした「忙しさ」を評価する文化は少し大変に感じるかもしれません。もちろん、全員がそうではありませんが、日本では多くの人が忙しさを「良いこと」として考える傾向があります。そのため、休むことやリラックスする時間を取りづらいこともあるかもしれません。

日本には魅力的な文化がたくさんありますが、ときには理解するのが難しいこともあります。それでも、日本の習慣や考え方を知ること、より深く日本を楽しむことができるでしょう。慣れるまでには時間がかかるかもしれませんが、少しずつ日本の文化に触れて、自分なりのペースで楽しんでみてください。日本の素晴らしさを感じつつ、自分らしく過ごしていくことが大切です。

「日本文化の苦手なところ」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

